

こころる便り

第228号

平成31年3月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kirimami@shingu.co.jp
電話 0791-751212

狂っている

花粉とともに一気に春がやってきたようです。今年の春は、「御代替り」という特別な節目を迎えます。今上陛下が上皇というお立場になられて、皇太子さまが新しい天皇陛下となられます。それに伴って元号も変わり、慣れ親しんだ平成の時代が幕を閉じることとなります。

私が生まれた昭和三十年代は、戦後復興がひと段落して東京オリンピック、大阪万国博覧会という新しい時代に向けての高度成長が続いているときでもありました。すべての物事が右肩上がり、国民の誰もが、やれば結果を出せるといふ元気で活気の溢れたころともいえると思います。電気洗濯機や自動炊飯器など、それまで手で行ってきた作業が電気の力で、目を見張る発展の時期でもありました。そして、昭和天皇が崩御され、平成の年号となって早くも三十年と思うだけで年月の早さを感じさせられます。

時代は大きく変わり、携帯電話がスマホとなつて音声でコンピュータを動かせるだけでなく、自分のしたいことを汲み取って手伝ってくれるソサエティ5.0という夢の時代へ突入しつつあります。車の自動運転だけでなく、ロボットや情報が共有されて時代の変化が毎年のように実感できるようになります。

しかしながら、人間はいかがでしょう。

二千五百年前の古典には、人間が人の役に立たずに自分の事ばかりを考えて行動することと注意したり、口先ばかりの人間は信用ならないと言ったりしています。つまり、文明は進化したものの、人間は全く変わっていないということなのです。その上に現代では、自分の子供を殺したり、親を殺したりしています。

動物の社会にさえ起りえないことを人間は平気でやっています。狂ってしまったとしか言いようがありませんが、誰の心の中にも「悪魔の心」が存在するとしたら、一概に犯罪者だけのことで片づけるわけにはいきません。私の中にもあるはずですが、罪を犯す人とどう違うのか。答えはひとつではありませんし、いつの時代も周りの人を慮る思いやりの心が人間の社会をよりよいものへと変えてきたはずで、笑顔とほんの少しの心遣いで「天使の心」を広げてまいりましょう。

新しい時代に向けて、大人が子供の手本になれるような生き方を目指したいものです。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第十八課 主婦の務

瀧子は吉田松陰の母であります。松陰の父杉百合之助は松陰が少年の頃までは、家祿ばかりでは、くらしを立てることが出来ませんでした。そこで、瀧子はよく夫を助けて、野に出て田畑を耕したり、山に行つて薪をとつたりして、仕事に骨折りました。又よく姑に事へ、子供の養育につとめ、裁縫・洗濯のことから家事一切をひとり引受けて、かひなく立働きの馬を飼ふ世話まで自分でしました。



瀧子は姑を大事にしました。三度の食事には暖いものをすゝめ、衣服は柔いものを着せなどしていたはり、裁縫する時は、喜ばれるやうな話をして聞かせて、慰めました。又姑の妹がこの家に世話になつてゐたが、或時、重い病氣にかかりました。瀧子は久しい間、夜もろくろく寝ずに心から介抱したので、姑は、「忙しくて暇のないのに、親類の世話まで親切にしてくれて、誠に有難い。」と言つて、涙を流して喜びました。

後、百合之助は藩の役人に取立てられて、城内にうつりましたが、瀧子は家に留つて、よく家政をととのへ、松陰等の養育につとめました。かやうに瀧子は夫を助けて勤儉力行したので、家も次第に豊になり、又教育の仕方がよかつたため、子供は皆心掛のよい人になりました。中にも松陰は國の爲に盡し、たび／＼難儀に出會つたが、いつも瀧子は我が子を勵まして、尊王愛國の道に盡させました。松陰が松下村塾を開いてゐた間も、瀧子はよく弟子たちをいたはり、又松陰をたづねて来る同志の人々を親切にもてなしました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障書を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いていただいております。